

全国民間保育園経営研究懇話会

経営懇ニュース 8月号 (No.201)

2020年8月31日

162-0837 東京都新宿区納戸町 26-3 保育プラザ 3F Tel03-6265-3174 Fax03-6265-3184 gsp10404@nifty.com

経営懇役員リレーエッセイ

私のルーツ

数あるテレビ番組の中で、NHKの「ファミリーヒストリー」は好きな番組のひとつです。有名人のルーツを遡ると、その人の今が何世代も前の人と繋がっていて、面白い！と思います。

私の故郷は静岡市街地から車で50分程の山里。わさび栽培発祥の地で、江戸時代から続く「畠石式農法」は世界農業遺産に認定されました。

元々は沢に生えていた野生のわさびを、先人たちが力を合わせて山を開墾し、沢に石畳を積んで栽培するようになったそうです。私の実家のわさび田は山を越えた場所にあり、幼い頃は父や母に連れられ、山道をひたすら歩いて通いました。車がなかった頃は山小屋に泊まることもあり、夏は小屋近くの沢でスイカやキュウリやトマトを冷やして食べたり、五右衛門風呂に入った思い出があります。地元の年配者が話す言葉は長野や山梨の方言に似ているので、昔の人たちは山を越えて甲斐や信濃の国と行き来していたのだらうと思います。私の父母、祖父母、それ以前の祖先もすべて地元の人なので、ルーツは単純で面白くないのですが、山を切り開く開拓者魂、共同の精神、まず動いてから考える、という“DNA”は、私の中にしっかり根付いていると感じることが多々あります。

今年の年明け、松の内も明けない1月5日。初孫（女兒）が産まれました。孫の誕生で“命が繋がっていること”を改めて実感しました。母親になった長女が産まれた38年前、どうしてもこぐま保育園に入園させたい！と、家族を説得し、通園に便利な仕事を探し、当時も狭き門だった保育園に入園できました。そして、偶然にも長女のお相手（つまり孫の父親）も、こぐま保育園の卒園

静岡・静岡福祉会 谷津智恵美

児だったのです。更に孫は6月から浜松なのはな保育園（経営懇加盟園）に入園。今、親子共々お世話になっています。命のリレーだけでなく、公私共に経営懇加盟園との関係が繋がっている。これは偶然ではなく、きっと“DNA”のお導き。将来、この道がどんな風に繋がっていくのか、とても楽しみです。

コロナ禍の中、7月1日。多機能型支援事業所「まつぼっくり」（児童発達支援事業所と放課後等デイサービス、10名定員）を開所しました。法人で4ヶ所目の拠点で初めての障がい福祉分野です。開所準備の段階で指定申請書の量と複雑さに驚きました。障がい福祉事業は多岐に渡り、どの事業にどの書類が必要なのか未だ理解できません。そして書類には「サービス」「営業時間」などの文字がいっぱい並んでいます。給付費は日割り計算で出来高払い、2ヶ月先の入金。経営はとても不安定。これは福祉とは言えません。「保育は福祉の最後の砦」だと身をもって実感すると同時に、障がい・介護制度の劣悪さと、事業者の中で社会福祉法人が占める割合が30%以下という現実に愕然としています。

最後の砦である保育制度を守るためにも、福祉共同の運動が本当に大切だと思います。静岡福祉会は、4月に発足した権利としての社会福祉を守る全国共同組織「社会福祉経営全国会議」に早速加盟しました。私のルーツ“DNA”も年齢と共に衰えていますが、少しでも改善・前進できるように可能な限り努力したいと思います。

という訳で、「社会福祉経営全国会議」に未加入の法人は、是非、加入をご検討ください。

保育をめぐる動き

●コロナ関連の動き

コロナ感染は、7月後半から8月にかけてさらに広がってきました。大都市部を中心にしつつも、次第に各地にも広がっています。

◆保育所でも感染拡大、PCR検査拡充の動き

東京都や大阪府などの都市部だけでなく、各地で、保育所での感染が確認されるようになってきました。保育所での感染の広がりに対し、自治体が、PCR検査を拡充するなどの独自の対策をとる動きがでています。

東京都世田谷区は、区の医師会とも協議し、検査体制を大幅に拡大する方針を打ち出しています。世田谷区の保坂区長は「感染リスクの高い保育士や介護スタッフへの定期検査も実施したい」と7月末の時点で語っていました。

8月24日に記者会見を行い、区内すべての保育士や介護施設の職員を対象に、PCR検査を行なう方針を明らかにしました。記者会見資料によれば、世田谷区では、感染拡大に対応するため、①感染の疑いがある方・濃厚接触者へのPCR検査と同時に、②保育や介護等の社会的インフラを継続的に維持するためのPCR検査(社会的検査)の実施体制を整備・拡充する、としています。

対象は、保育園・幼稚園の職員や介護施設の職員、特別養護老人ホーム等の新規入所者等で、約23,000人を想定しています。社会的インフラを維持するための検査であることから「社会的検査」として、自己負担ではなく、行政の責任で検査を行ないます。ただし、症状のない人の検査を公費で行えるのかという課題があり、区の独自財源や寄付等を財源として考えているようです。こうした検査の拡充は、国や東京都の協力が不可欠であり、支援を求めていくとしています。

他にも、感染リスクが高い集団(保育所等)へのPCR検査の実施を検討している自治体が出てきました。PCR検査の不十分さを指摘する声もありますが、現時点でできる対策を行ないながら探っていくことも重要です。自治体レベルでの対策とあわせて、国としての対策・支援を求めていきましょう。

◆自治体独自の慰労金

コロナ禍での業務に対する慰労金等として、保育所や学童保育所等の職員に対し、補助をおこなう自治体が増えてきました。国の補正予算で創設された、新型コロナ対策のための地方創生臨時交付金を活用した自治体もあるようです。

一方で、これまで出されていた保育関係の補助金を削減する動きも出てきており、自治体の動きを注視していく必要があります。

●自治体へ要望を届けよう

自治体にむけて、コロナへの対策や保育条件について要望を届けるとりくみが、各地で行われています。地域経営懇や民間保育園有志、保育連絡会などなど、できることから、一致できる内容で要望を届けていきましょう(要望書は同封)。

◆埼玉県所沢市

所沢私立保育園連絡協議会として、市長あてに要望書を提出し懇談を求めています。主な内容は、PCR検査の拡充と、感染者が保育園で発生した場合の臨時・代替保育の整備、一時保育事業の減額分への補助等です。

◆京都府宇治市

宇治の保育政策を考える会として、市長・関係の行政窓口へ要望書を提出しています。主には、児童福祉関係の職員に公費でPCR検査を実施、国の基準以上の人的配置を市独自で保障、感染予防対策のための人的配置等を求めています。

◆愛知県・名古屋市

あいち保育共同連合会では、愛知県と名古屋市に要望書を提出しています（内容は資料参照）。

◆広島市

広島市の豊かな保育をすすめる会では、コロナ対策に向けた緊急要望書、保育行政の充実を求める要求書を市長あてに提出しています。

◆全国保育団体連絡会（全保連）

国に向けて、今後のコロナ感染対策に向けた要望書を提出しました。自治体向けの要望書ひながたも提供されています。

◆社会福祉経営全国会議

コロナ感染症対策の拡充と人々の生活と命を支える社会福祉事業の維持・存続を求める声明を発表し、関係大臣等に提出をしました。

※全国経営懇としては各地の要望書等をふまえて、国に向けた要望を整理し、届けていく予定です。

●独自補助削減の動き

自治体が独自に行ってきた補助を削減する動きが出てきています。

◆東京都稲城市

稲城市では、3月議会で2020年度の私立保育園補助金の大幅な見直しが行われ、一部の項目の削除と包括化が行われました。結果として私立認可保育所各園で、約400～700万円の補助金が減額されることとなっています。コロナ禍により園長会が6月まで開催されず、6月以降、こうした内容について、突然市から園長会に示された形になっているということです。

この補助金カットに対し、園長会や関係者から見直しを求める要望が出されています。

◆京都市

京都市は、歳入歳出の抜本的な見直しを検討するためとして、「持続可能な行財政審議会」を発足させました。7月2日に初会合を開いています。

具体的には、社会福祉を含む市民サービスのカットや職員数など人件費削減を掲げ、保育料の軽減や保育士加配、障害児保育対策加算等が検証の対象にされようとしています。審議会は、2021年3月には答申を出す予定としています。

こうした動きに対し、「ほんまもん日本一の保育・学童保育がいいなあ！京都市実行委員会」は、社会福祉の削減ではなく、これまでの保育の到達点と市民の暮らしを守る財政運営を求め、審議会・市に対して緊急の要請を行うとして、要請署名への協力を呼びかけています。

●コロナの状況アンケート/埼玉

埼玉経営懇では、コロナ禍での園の様子についてアンケートを行っています。会員園23園が回答を寄せています。一部を紹介します。

- プール活動 行う12か園 行わない10か園
 - ・人数の多いクラスを分ける。塩素濃度を一定に保つよう計測に気をつける。
 - ・大きい子のプールは時間を分けて、小さい子のプールは数を増やした。
- お祭り
 - 形を変えて行う19か園 行わない4か園
 - ・おまつりごっことして行なう
 - ・園児と職員だけで行う
 - ・通常の出店等はなし、人数を制限して行う予定
 - ・規模を縮小し人数を制限する。3密をさける。食品の出店はなし。検温・マスク・消毒
- 遠足などの園外保育
 - 行う19か園 行わない2か園 未定2か園
- 運動会
 - 行う14か園 行わない2か園 検討中7か園

コロナ禍での保育は現在進行中です。試行錯誤や困っていること等も、身近な地域で交流しながら、各園で考えていくことが大事です。

WEB 合研

福島での 52 回合研集会は中止ですが、8 月 8 日にインターネットを活用した企画「WEB 合研」が開催されました。



予想もしなかったコロナ感染の拡大により Web 開催に挑戦することになった合研実行委員会。各地からの中継も、何度も練習をして本番にのぞみました。

本番では、保育プラザをセンターに各地をつないだ映像を YouTube で配信しました。ライブ配信中、最大時 1644 か所で視聴されました。

「青い空は」リモート動画作成には 54 の団体・個人が参加しています。



内容は、合研基調報告をベースにしたシンポジウム、安田菜津紀さんメッセージ、現場からの発言でした。「これ以上がんばれないって言うていいんだ」「会えなくても思いを共有することが大事」など感想もたくさん寄せられました。

9 月 3～5 日再配信、お見逃しなく！

お知らせ

コロナ感染症拡大防止の観点から、今年度のセミナーは中止となりました。ご了承ください。

※2021 年度は、同じ会場での開催を予定しています。

- ・2021 年 9 月夏季セミナー（神奈川県横浜市）
- ・2021 年 11 月主任セミナー（東京都多摩市）
- ・2022 年 1 月経営セミナー（愛知県豊橋市）

【経営懇・活動日誌】8 月

- 8 月 3 日 役員会。zoom にて Web 会議。
- 8 月 8 日 WEB 合研開催。
- 8 月下旬 役員会の論議や会員のみなさんからの意見をふまえて、総会のまとめ文書作成（事務局長・森山さん）
- 8 月 24 日 事務局会議。換気・マスク着用で対面で行う（3 名）。
- 8 月 31 日 三役会（Web 会議）

同封資料

- ①各地の要望書
- ②コロナ対策要望書ひながた
- ③社福経営 INFO（No.8）
- ④新型コロナウイルス学習会（愛知）
- ⑤保育白書ご案内

『保育白書』2020 年度版発行

- 特集「コロナ禍の実態と保育の未来」
- 保育最前線レポート～増える保育事故園・行政の責任と課題

コロナ禍での国の事務連絡等も一挙掲載
＜本体価格 2,700 円＋税／送料無料＞

コロナ禍で保育白書を販売する機会もなくなり、厳しい状況です。ぜひ、園や法人で『保育白書』をご活用ください（保育研究所）。